



▲当日の釣り場は中ノ瀬の水深15~20メートル

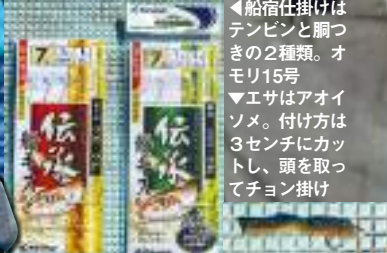


▲1投目から一荷釣り

◀小気味いい引きを堪能



▲アベレージは18センチ前後。小型はほとんど交じらなかった
◀当日のトップは58尾。仕掛けはテンピン2本バリ



◀船宿仕掛けはテンピンと胴つきの2種類。オモリ15号

▼エサはアオイソメ。付け方は3センチにカットし、頭を取ってチョン掛け

★当日最大22センチのシロギス。冬になっても深場に落ちることなく、今後も数、型ともに期待大



▲船下でアタリがなければアンダーハンドで広く探る

東京湾奥羽田大師橋際出船 中ノ瀬の浅場で狙える 東京湾のシロギス好調

撮影●本誌編集部

▼丸まる太った20センチ級の良型もよく釣れた



▲仕掛けが着底したら糸フケを取り、ゆっくりサビいたり、シャクリ上げたりして誘う

東京湾の小物釣りで人気のシロギス。味わうなら定番の天ぷらはもちろんフライや塩焼き、昆布じめなどどんな料理も美味だが、冬場は身にほんのりと脂が乗ってより一層おいしくなる。
東京湾奥羽田大師橋際出船のかめだやで取材した12月23日は中ノ瀬の水深15~20メートルを狙い、14~22センチのシロギスがトップ58尾。平均30尾の釣果を得て全員大満足で一日を終えた。今年の水温が下がらず安定しているため、もうしばらくは浅場で良型交じりの数釣りが楽しめそうだ。
(詳細は48ページ参照)



●東京湾奥羽田大師橋際・かめだや
鈴木 祥太船長